

第四期 施設・周辺整備協議会から

●エコプラザ(仮称)の検討の中間まとめ

施設・周辺整備協議会では、新クリーンセンター敷地内の「施設整備」、施設に隣接する「市役所北エリア整備」、市役所北エリアを中心とする「周辺のまちづくり」について、第一期(平成22年)から実質約6年間、3本の柱「低炭素モデルの実現」「地域力の向上」「まちづくりとの連携」に沿って検討してきました。

その中の「施設整備」に属する、クリーンセンター事務所棟をリニューアルして開設する環境啓発施設「エコプラザ(仮称)」について、2月発足のエコプラザ(仮称)市民検討会議に提案するため、これまでの検討を整理し、1月に「エコプラザ(仮称)事業のあり方 中間のまとめ」を出しました。

●周辺整備の検討が始まる

2月からクリーンセンターに隣接する野球場、テニスコート、緑町コミュニティセンターを含む「市役所北エリア」について検討を始めました。北エリアには公共施設が集まっており、公園もあります。この地域のもつ課題を整理して、より使いやすく開かれた地域になるよう、話し合いを進めています。

より広く市民で検討するために  
エコプラザ(仮称)検討市民会議

武蔵野市は、武蔵野市長期計画に基づき、環境啓発施設エコプラザ(仮称)について、より広く全市民的な視点で施設のあり方を検討する、エコプラザ(仮称)市民検討会議を設置し、第一回会議が2月20日に行われました。

施設・周辺整備協議会会長の小澤紀美子氏が会長を兼任、周辺住民団体代表として施設・周辺整備協議会から3名が参加しています。今年度中に10回程度の会議と視察を行い、より具体的な機能、空間活用、運営などについて検討し、報告書にまとめます。エコプラザは平成32年度に開設する予定です。

エコプラザ(仮称)市民検討会議 委員構成

	氏名	所属・役職等
学識	小澤 紀美子	東京学芸大学名誉教授 第四期武蔵野クリーンセンター(仮称)施設・周辺整備協議会会長
	鈴木 雅和	筑波大学芸術系教授 第九期環境市民会議副委員長
教育	大沢 武弘	武蔵野市立小中学校長 本宿小学校校長
	長島 剛	多摩信用金庫 価値創造事業部長
事業者	新立 利也	(株)イトーヨーカ堂 CSR推進部兼お客様相談部総括マネージャー
	田中 稔	特定非営利活動法人 太陽光発電所ネットワーク
市民団体等	志賀 和男	クリーンむさしのを推進する会会長
	村井 寿夫	吉祥寺北町五丁目町会
	塩澤 誠一郎	第四期新クリーンセンター(仮称)施設・周辺整備協議会 緑町三丁目町会
	木村 文	緑町二丁目三番地域住民協議会
	小澤 里美	水の学校 サポーター
公募	鈴木 圭子	一般社団法人 グリーンボード
	上吉川 航人	桜堤在住
行政	大谷 紗知子	吉祥寺北町在住
	郡 護	武蔵野市 環境部長

\*編集後記\*

平成30年9月まで旧工場棟の解体工事が行われます。32年間、お世話になりました。そして、4月から新しい工場が、市民のみならずみなさまとともに歩むことになりました。運営協議会は市と「解体工事に関する工事協定書」を結び、「操業に関する協定書」を新たに協議し、これからは市民の健康、生活環境の安心・安全を見守って行きます。ぜひ、工場見学にいらしてください。建物内外ともすてきです!(島森和子)

平成28年度 活動報告

- 平成28年
- 4/26 第210回 運営協議会会議
  - 5/31 第211回 運営協議会会議
  - 7/31 「運営協議会だより」第64号発行
  - 8/3 第212回 運営協議会会議
  - 9/30 第213回 運営協議会会議
  - 10/9 運営協議会・市共催イベント「クリーンセンターとあそぶ」開催  
来場者 684名
  - 11/19 運営協議会バス研修開催 参加者 53名  
\*ガスの科学館 がすてなーに(江東区)  
\*NHKスタジオパーク(渋谷区)
  - 12/13 第214回 運営協議会会議
  - 12/15 「運営協議会だより」第65号発行
- 平成29年
- 1/31 臨時 運営協議会会議
  - 2/15、20、24、3/1、6、10 環境健康診断実施 受診者 177名
  - 2/21 委員研修  
\*ふじみ衛生組合クリーンプラザふじみ(調布市)  
\*東京都二十三区清掃一部事務組合 練馬清掃工場(練馬区)
  - 2/28 第215回 運営協議会会議
  - 3/31 「運営協議会だより」第66号発行

編集・発行/武蔵野クリーンセンター運営協議会  
〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5  
武蔵野クリーンセンター内  
電話: 0422-54-1221  
●武蔵野市ホームページ  
<http://www.city.musashino.lg.jp/>

\*この広報は、再生紙を使用しています。

# 武蔵野クリーンセンター 運営協議会 だより 66

武蔵野クリーンセンター運営協議会とは  
1984年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された  
周辺住民3団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。

## 工事中 NOW 32年間、ありがとう クリーンセンター旧工場棟

昨年12月中旬から、クリーンセンターの新工場棟で試運転が始まり、旧工場棟は火納め式をもって焼却炉を閉じ、役目を終えました。年末の火納め式では、おもわず涙ぐむ人もいました。

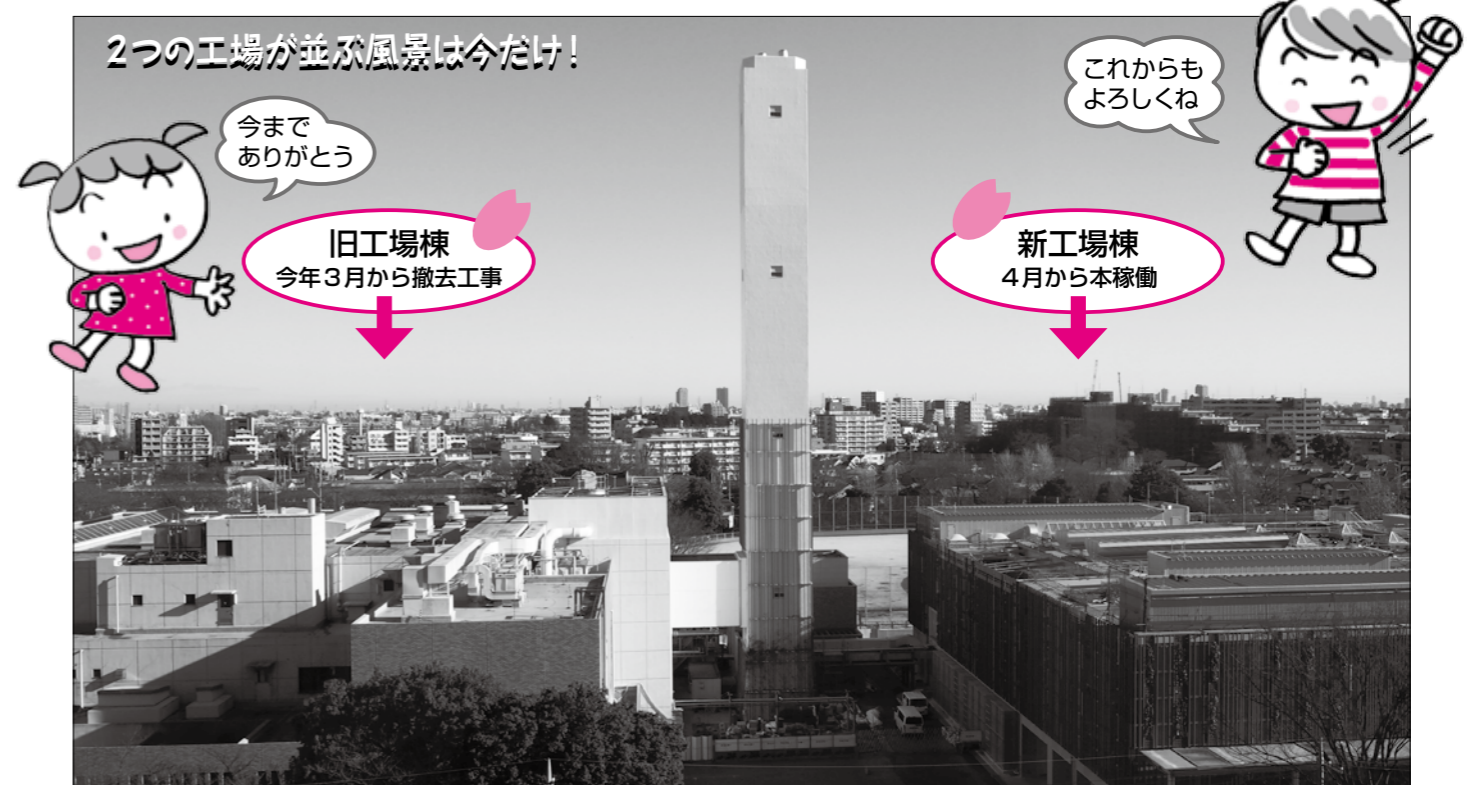
昭和59(1984)年、建設から、休まずごみ処理を続け、さまざまなトラブルを乗り越えてきた旧工場棟、現場で働く方々、イベントに参加したり施設を見守ってきた周辺住民の方々、旧工場棟に携わった方々など、多くの方々にお世話になりました。

CONTENTS

- P1...工事中 NOW  
**32年間、ありがとう  
クリーンセンター旧工場棟**
- P2...旧工場棟の解体工事
- P3...建設をめぐる市民運動から市民参加へ、  
市民と行政のパートナーシップ
- P4...施設・周辺整備協議会から  
エコプラザ(仮称)市民検討会議始まる  
平成28年度活動報告

クリーンセンター運営協議会で周辺住民が継続して協議したり、イベント開催などを行うことで、地域コミュニティが育まれたことも大きな成果です。

ごみ処理施設は、生活になくってはならないもの。新しいクリーンセンター、環境啓発施設エコプラザ(仮称)と建設が続きますが、地域の安全について市民と行政が話し合い、32年間に215回の会議を重ねてきたパートナーシップの市民参加を次世代にしっかりつなげていくことが望まれます。



# 旧工場棟の解体工事

※詳しい内容は、クリーンセンターのホームページをご覧ください。クリーンセンターにお問い合わせください。

## ごみ処理施設の解体工事

ごみ処理施設は一般の建築物と違い、安全に解体が行われるよう法律でさまざまな規制があります。工事前の十分な調査と分析、その結果に基づいて、周辺環境の安全、ダイオキシン類など汚染物・廃棄物・アスベストなどの適切な除去と処分、作業員の安全対策などが必要です。

### <工事の流れ>

工事区域を調査した上で、密閉し、有害物を安全に取り除き、洗浄したあとに解体します。すべての工程で、有害物は絶対に外に出しません。

- ①調査・分析
- ↓
- ②密閉して養生する
- ↓
- ③有害物質を適切に取り除き、処分する
- ↓
- ④焼却炉内部・機械類を高圧洗浄で洗う
- ↓
- ⑤機械類を取り除き、処分する
- ↓
- ⑥建物の解体・撤去・廃材の撤去

### 除去した有害物などのゆくえ

安全に取り除いたアスベストなどの有害物は、専門の処理施設で処理し埋め立てます。市では、専門の処理施設に確かに持ち込まれたか追跡調査を行います。また、焼却炉内部や施設内の機械を高圧洗浄した水は、排水処理設備で処理し、処理水を再利用して、一切下水放流はしません。最終的に洗浄水・沈殿した污泥は産業廃棄物として処理します。

### <主な安全対策>

- ダイオキシン類・粉じん**
    - ▶管理区域は密閉し、高圧洗浄から内部機器解体までその中で行う。
    - ▶管理区域内は、負圧集じん機で空気圧力を下げて、中の空気を外に出さない。さらに出入口に二重ゲート構造の前室(積出室)を設置。重機の出入りや解体物を出す際に片方のゲートを閉じ、ダイオキシン類・粉じんを外に出さない。
    - ▶粉じん測定装置の設置…作業室内から出る排気にデジタル粉じん計を設置した粉じん連続測定監視システムを採用。粉じん濃度測定器を敷地境界に設置。
    - ▶建物内の作業員は保護具を着用。
    - ▶解体時は、常時散水し粉じんの拡散を防ぐ。
  - アスベスト**
    - ▶床や壁、プラント配管などの断熱材・保温材に含まれているアスベストは、袋で覆い密閉して安全に除去。
  - 工事車両**
    - ▶市役所の北側⇄中央通り⇄青梅街道の指定のルートを進める。現在進んでいる中央公園の工事やNTT社宅跡地の工事とルートが重なるため連絡をとり調整する。
  - 騒音・振動**
    - ▶解体する建物の周囲に防音パネルを設置。打撃式ではなく油圧圧砕機で騒音を低減。各所に測定器を設置。
- 1月28日・2月5日に周辺住民団体への解体工事説明会が行われました。質疑応答は、安全対策、測定値の情報公開、車両のルートや台数など多岐にわたりました。平成30年9月の解体工事終了後は、新クリーンセンター管理棟の工事が始まります。

## 旧工場棟解体工事のスケジュール 工期：平成28年12月21日～平成30年9月28日

工事の種類	年月(平成)		平成29年												平成30年									
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
準備工事	工事計画・分析調査																							
仮設工事			仮囲い設置																				仮囲い撤去	
解体工事	付帯施設			分析倉庫・冷却塔撤去																				
	粗大ごみ施設			粗大ごみ棟撤去																				
	焼却設備			大きな音が予想される		焼却設備撤去																		
	建物(地上部)													建物(地上部)撤去										
建物(地下部)													大きな音が予想される		建物(地下部)撤去									
付帯工事																					外構等撤去			

※工事の進み具合により、工程は変更になる可能性があります。

# 建設をめぐる市民運動から市民参加へ、市民と行政のパートナーシップ

## ●クリーンセンター建設と運営協議会のできるまで

年	クリーンセンターと運営協議会の歴史事項
昭和 45年～46年 (1970～1971)	▶三鷹市と共同でごみ処理をしていたふじみ焼却場の周辺住民による、騒音・悪臭・ばい煙などの公害防止についての陳情、武蔵野市のごみ搬入阻止。
48年(1973) 53年(1978)	<b>武蔵野クリーンセンター建設へ</b> ▶3月 清掃対策市民委員会発足。 ▶12月 市長が、北町五丁目市営プール跡地を建設用地として発表。 ▶市営プール周辺住民が <b>武蔵野市のごみ問題を考える会</b> を結成、建設反対運動を強め、市民参加による用地選定を求める。
54年(1979)	▶12月 <b>クリーンセンター建設特別委員会</b> 発足。 4候補地の住民代表を含む市民参加で検討。用地に市営グラウンドを選ぶ。 ▶緑町団地自治会と北町五丁目町会は建設に合意。緑町三丁目には合意せず。
56年(1981)	▶ <b>クリーンセンター・まちづくり委員会</b> 発足。どのような施設がよいかを市民参加で検討。 要綱前文に、行政と市民のパートナーシップを提唱。
57年(1982)	▶武蔵野クリーンセンター建設工事着手。 クリーンセンター・まちづくり委員会第1回提言(北側土地利用に関する提言)
58年(1983) 59年(1984)	▶クリーンセンター・まちづくり委員会第2回提言(リサイクルセンターに関する提言) ▶ <b>武蔵野クリーンセンター竣工、本稼働開始。</b> ▶ <b>武蔵野クリーンセンター運営協議会発足。</b> クリーンセンター・まちづくり委員会の提言にから、施設周辺の緑町団地自治会、北町五丁目町会に緑町三丁目町会も参加。
61年(1986) 62年(1987)	▶運営協議会だより第1号発行 ▶ <b>武蔵野クリーンセンター操業に関する協定書</b> を地域3団体と締結。



クリーンセンター建設特別市民委員会(当時の新聞記事より)



完全装備で、クリーンセンターのごみ質調査の様子を見学する運営協議会委員

### ●運営協議会の主な活動

武蔵野市と周辺住民3団体(北町五丁目町会・緑町三丁目町会・武蔵野緑町二丁目三番地域住民協議会<sup>注</sup>)は「クリーンセンター操業に関する協定書」を結び、これに基づいて活動しています。注：武蔵野緑町パークタウンと武蔵野緑町二丁目第2アパートで結成

### 施設の運営を監視する

協議会では、毎月のごみ搬出入量、さまざまな環境調査の結果、駐車場の利用等、すべての施設運営について報告され、必要に応じて討議します。



イベントで人気の足湯。ごみを燃やす熱を利用してあります。

### 広報発行やイベント開催

広報で活動報告やクリーンセンターの情報をわかりやすく伝えていきます。講演会やワークショップなど、ごみに関する運営協議会ならではのイベントを開催し、環境学習のみならず施設を通して地域交流を図っています。

### 工事や爆発事故

運営協議会は、情報公開、工事や爆発事故発生時の地域への周知、必要に応じて地域への説明会、施設の排ガスやダイオキシン類の調査、周辺地域の土壌中のダイオキシン類の調査、お知らせの発行などを要望し、実施されてきました。



爆発事故で大破し垂んだ設備。復旧には莫大な費用・時間・労力がかかります。周辺住民も不安です。

### 最終処分場の問題

最終処分場の問題は建設当初からあり、市はごみの減量にさまざまな対策を講じ、施設改修をしてきました。設備の導入や改修の際には必ず運営協議会で報告され、時には委員と市の担当者が他施設を視察し、学習活動を行っています。

### ごみの収集・処理方法の移り変わり

稼働開始から社会状況に応じてごみの内容もプラスチック類の増加等多様化しており、プラスチック類の分別・焼却、家庭ごみの有料化、収集・処理方法も変わってきました。これらはクリーンセンターに大きく関わるため、運営協議会ではその都度に問題に取り組み、安全対策に貢献してきました。

### プラスチック類の焼却問題

プラスチックの焼却問題は、2年半をかけて討議し、地域住民は苦渋の決断で実施に同意しました。このとき周辺住民は、全市民にごみ減量・資源化への協力、事業者へごみの発生抑制を要望しました。